



移り変わる四季の表情が存分に楽しめる和室からの景色。大きな窓が、庭との一体感を高めている。(新居浜市A様邸)

## 庭屋一如 ていおくいちらによ

平安時代に生まれた「寝殿造り」は大きな池を寝殿の前に造り、建物の間には水が流れ、草木に囲まれ、住まう人が四季を楽しむ仕掛けがいたるところに施されています。

こうした建物と庭、そして周囲の環境がともに共生し自然と一体化した暮らしを尊ぶスタイルを「庭屋一如」(ていおくいちらによ)と呼んできました。

春には小鳥のさえずりを、夏には力強い新緑を、秋には風に舞う紅葉を、冬には純白の粉雪を……

風を感じる、四季の移ろいを感じる「庭」と居住性、利便性を追求した「建物」が共生する「庭屋一如」。理想の家づくりがみえてきます。

現在家づくりを計画されている方々のほとんどが建物に重きを置いて未来図を描かれています。

限られたスペースなかで最大限の住空間を創りだし、快適な毎日をご提供するプランをご提案できるよう我々も日々努力しています。

そんな建物重視の住まいづくりが進む現代に「庭屋一如」をコンセプトとした家づくりが再び高く評価されています。

「日本庭園」のような圧倒的で、完成された美しさではなく大小さまざまな生命が息づき、四季折々の表情が楽しめる「雑木林」をモダンにアレンジした庭は高価な費用を必要とせず、わずかなスペースでも最大級の潤いを住まう人にもたらししてくれます。

建物だけの「家づくり」ではなく、自然を取り込んで暮らしを豊かにしていく「庭」との共生が今求められています。

縁側でお茶をしたり、読書をしたり、子供たちの遊び場など家族それぞれが楽しめるシーンが広がる。

足元には小さな生命の息吹にあふれている。木々だけではなく苔さえも庭を彩るメインアクトに。

